じゅ　　りん
樹　林

加羅古呂庵 一泉

2021.6.2 作曲

樹　林

その森は、小高い山を覆っています。かつて、室町時代に城があったそうですが、江戸時代に一国一城の制が敷かれると、城は打ち捨てられ、いつしか木々に覆われたのでしょう。豊かな緑は、日常を離れた安らぎを与えてくれます。どこにいるかは定かではありませんが、鳥たちの声も聞こえてきます。

この森に身を置きながら、「梢の中から」「陽だまりにて」「空に向かって」の3つの部分からなる尺八五重奏曲を作ってみました。

夜が明けて、あたりが明るくなると、梢のどこかから、この森に住む鳥たちののどかな声が聞こえてきます。

昼下がり、森の一角にある草地に陽射しが差し込み、まわりを取り囲む木々の中で、ゆったりとした時が流れていきます。

森の緑はますます濃くなり、木々は風に枝を揺らしつつも、幹はたくましく、屹然として空に向かって伸びていきます。